専大スポーツ
No. 356
大会結果、予定は体育会ホームページ（専大ホームページ「スポーツ」からアクセス）でご確認ください
専大スポーツ編集部 web(http://sensupo.web.fc2.com/)でも大会結果を配信しています

▶ 鈴木（左）・安藤ペア

◀ 田添（右）・郡山ペア

卓球・全日本大学総合選手権・個人の部

ダブルス 男女でV

女子シングルスは鈴木

全日本大学総合卓球選手権・個人の部が10月22日から25日まで、京都市のハンナリーズアリーナで行われ、男子・女子のダブルス、女子シングルスで優勝した。

春の関東学生リーグ戦優勝、夏の全日本大学総合・団体の部での全国制覇など活躍を続ける女子。今大会ダブルスは、鈴木李茄（商3・青森山田高）・安藤みなみ（商1・慶誠高）ペアが優勝、シングルスで鈴木が優勝を果たした。鈴木は、松崎キミ代OB・OG会長（昭36商経）以来の全国大会3冠を達成した。

ダブルスは、各試合で相手に2セット目を与えない試合運び。決勝では第1セットを落としたが、そこから3セット連取で試合をものにした。

シングルスの鈴木は準決勝、決勝ともにフルセットを戦った。決勝は第1セットを先取するも、その後3セットを奪われ、後がなくなる。しかし、そこから3セットを連取、逆転で勝利を手にした。

そしてこの秋、11年ぶりに関東学生リーグ戦を制した男子。期待がかかる中、ダブルスで、田添健汰（商2・希望が丘高）・郡山北斗（経営1・関西高）ペアが優勝、シングルスで田添が3位に入った。ダブルスは他を寄せつけない戦いで勝ち進み、準決勝と決勝は、相手に1セットも与えず、頂点に立った。

鈴木は「この大会に照準を合わせていたので、シングルスで優勝できてうれしい。ペアは安藤にメンタル面も技術面も助けられ、優勝を果たすことができた」と話した。

田添は「決勝ではいつも以上の力が出せた。自分がチャンスを作り、郡山が決めるというスタイルで優勝できた。今後はナショナルチーム入りが目標」と語った。

これから男女ともに活躍の期待が高まる卓球男子優勝祝賀会が開かれた。日髙義博理事長、矢野建一学長をはじめ、OB・OG、保護者ら多くの関係者が駆けつけ、優勝を祝した。

（冨樫幸恵・文1）

ゴルフ・朝日杯争奪 日本女子学生選手権

高山が初優勝

▲ 優勝カップを持つ高山

10月27、28日、千葉カントリークラブ・梅郷コースで朝日杯争奪日本女子学生ゴルフ選手権が行われ、高山佳小里（経営4・広島県瀬戸内高）が初優勝を果たした。

高山は初日を4アンダーの68で2位と2打差をつけ首位に躍り出ると、2日目も首位をキープ。トータル6アンダーの138をマークした。

「このような大きな大会で勝つことができ、本当にうれしい。実力的にもメンタル面から考えても、2日目は崩れてしまうと思っていたが、最後まで諦めない気持ちで、ミスをしても落ち込まずに平常心を貫くことができた。祖父が18ホールついて回ってくれて、とても心強かった。4年間支えてくれたすべての人に感謝したい」と振り返り、「将来はプロを目指す」と決意を語った。

▶ 信夫杯・最優秀選手の山田

信夫杯は4位

10月29、30日に同会場で行われた男子団体の信夫杯争奪日本大学対抗は4位。山田大晟（商2・横浜旭陵高）が通算8アンダーで最優秀選手に選ばれた。

山田は「日本オープンの経験から、2日間通して安定したプレーができた。次は団体でもトップを目指す」と今後の目標を語った。

（飛田翼・文1）

フェンシング・関東学生選手権

男子エペ 女子サーブル 団体優勝

▲ 男子エペ団体メンバー

▲ 女子サーブルの滝澤

10月21日から27日まで、駒沢総合体育館で関東学生フェンシング選手権が行われ、男子エペ団体と女子サーブル団体の2種目で優勝した。

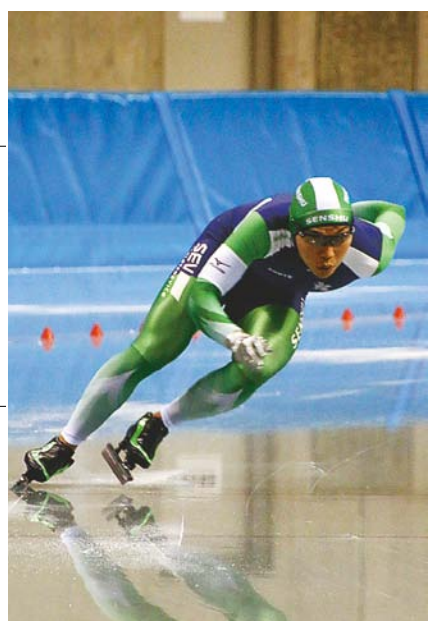
女子フルーレは団体2位、個人で高橋風子（商4・聖霊女子短大付高）が2位に入った。

男子エペをけん引した谷口琢弥主将（ネット情報4・鹿児島南高）は「厳しい場面もあったが勝ちきることができた。全員役割どおりの動きができ、序盤からリードする展開を作れたことが結果につながったと思う。インカレでも団体・個人ともに優勝を目指したい」と語った。

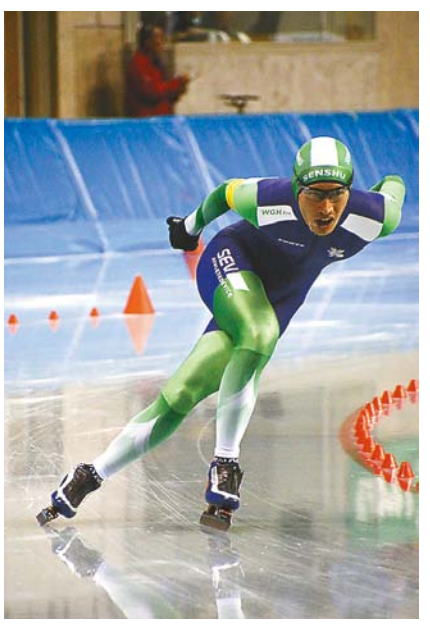
また、女子サーブルに出場した滝澤麻未（経済4・横浜商科大高）は「強い先輩を見てきて、後に続きたいという思いがあったので、優勝が決まった瞬間はうれし涙が止まらなかった。インカレでは一本一本集中して勝利につなげたい」と話した。

（千葉ますみ・商2）

スピードスケート・全日本距離別選手権



1000㍍ 2位
近藤



5000㍍ 3位
土屋

W杯日本代表に

全日本スピードスケート距離別選手権が10月23日から25日まで、エムウェーブ長野市オリンピック記念アリーナで行われた。

専大からは6人が出場し、近藤太郎（経営3・駒澤大附苫小牧高）、土屋良輔（経営3・嬬恋高）が好成績を収め、ワールドカップ（W杯）前半戦の日本代表に選出された。

近藤は初日、2日目を終え、「練習では調子がいいのに試合では思うようにいかない。代表に選ばれるにはギリギリの位置にいる」と話していた。大きなプレッシャーを抱えて臨んだ最終日、得意の1000㍍で納得のいく滑りをみせ自己ベストを更新し、2位に輝いた。

土屋は5000㍍で3位となりW杯の枠を獲得したが、「コーナー入り口の失敗を立て直す力がなかった。W杯までに修正する」とさらなる成長を誓った。

W杯の前半戦は12月まで、第1戦カナダ・カルガリー、第2戦アメリカ・ソルトレイクシティ、第3戦ドイツ・インツェル、第4戦オランダ・ヘレンベーンで行われる。

土屋は第1、3、4戦の5000㍍、チームパシュートに、近藤は第2、3、4戦の1000㍍に出場する。

（斉藤葵・商2＝写真も）